

香川県三豊市（国内 6 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 6 年 11 月 8 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 4.2 万羽）
発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎
発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立 6 段ケージ 6 列、通路 4 本）

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は雑木林に囲まれた斜面上にあり、周辺には畑地や果樹園、民家があった。
- ② 発生鶏舎はため池と隣り合っており、カモ類 2 羽が確認された。農場周辺にはため池が多数あり、11 か所のため池を調査した結果、ヒドリガモ 20 羽をはじめ、合計 37 羽のカモ類が確認された。
- ③ 当該農場はウインドウレス鶏舎 2 棟で構成され、発生鶏舎は 2 階建て鶏舎の 1 階だった。発生鶏舎の出入口は各階 2 つずつあり、1 階と 2 階は鶏舎内の階段 1 つと鶏舎外の階段 1 つで連結されていた。
- ④ 鶏舎は約 50 年前に建てられ、約 35 年前に高床鶏舎から現在のウインドウレスに建て替え、約 5 年前にケージ等の改修を行ったとのこと。

3 通報の経緯・発生時の状況

- ① 通常 1 日あたりの死亡羽数は 1 ～ 2 羽程度であるところ、11 月 7 日に、発生鶏舎の中央の列の中段、東側入口近くの隣接する 2 ケージで 24 羽中 13 羽が固まって死亡していたため家畜保健衛生所に通報した
- ② 農場主によると、発生鶏舎において、通報日及びその前数日に、死亡鶏以外の鶏に衰弱等の異状は認められなかったが、当該鶏舎では 11 月 2 日から 5 日にかけて卵重の低下が見られたとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎 1 階の鶏は既に殺処分されており、その他の鶏舎では特に異状は認められなかった。

4 管理者及び従業員

- ① 当該農場では農場主を含めた正社員 5 名とパート 1 名、うち外国人技能実習生が 1 名勤務している。普段は鶏糞作業 1 名、飼養管理 5 名体制だが、鶏糞作業を行う日は飼養管理の 1 名が鶏糞作業も行うとのこと。
- ② 日によって担当鶏舎が割り振られ、基本的に 1 日 1 鶏舎を担当するとのこと。
- ③ 飼養管理担当者 5 名は午前中当該農場で作業し、内 4 名は午後に農場主が所有する関連農場で作業するとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 管理区域周囲のフェンスや門扉は設置されていないが、普段は管理区域入口にコーンが設置されているとのこと。立入禁止看板は設置されていた。
- ② 農場入口、鶏舎周囲及び鶏舎入り口付近には定期的に消石灰が散布しているとのこと。
- ③ 農場入口には車両消毒用ノズルが設置されており、飼料運搬車両及び集卵車両は消毒をして衛生管理区域に入場し、作業者は持参した長靴を着用しているとのこと。
- ④ 農場主によると、従業員は事務所で更衣及び靴の交換を行い、鶏舎に入る際は鶏舎専用の長靴に履き替え、手指のアルコール消毒を行っているとのこと。ただし、発生鶏舎の 1 階と 2 階の裏口に設置された外階段を利用する際の長靴の履き替えは行って

いないとのこと。

- ⑤ 鶏舎ごとのオールイン・オールアウトを実施しており、空舎期間は1か月設けているとのこと。
- ⑥ 換気システムはクーリングパッドから入気し、ファンによって排気するトンネル換気だった。排気用ファンは温度で自動制御されており、発生時期は常時2台程度が稼働していたとのこと。排気用ファンの内側には四角形3.5cmメッシュの金網が設置され、未使用時にはシャッターが閉まる構造だったが、金網の接続部に約20cm×10cmの隙間が見られたほか、一部のファンのシャッターは閉鎖不良となっていた。
- ⑦ 飼料は屋外に設置された飼料タンクから鶏舎内のラインを通して自動で給餌する構造となっていた。水は水道水を使用していた。
- ⑧ 鶏舎間の集卵コンベア上部に金網が設置されていたが、一部外れている箇所があった。集卵コンベア非稼働時には、鶏舎側の開口部に従業員が板を設置することによって集卵コンベア開口部を閉鎖しているとのこと。
- ⑨ 除糞作業は3日に1回行っており、鶏糞は除糞ベルトにより搬出された後、衛生管理区域内の堆肥舎までダンプで運び、堆肥化しているとのこと。鶏糞の搬出口は、作業時以外はシャッターを閉めていたが、シャッター下部に高さ4cmの隙間を認めた。また、堆肥舎に防鳥ネットは設置されていなかった。
- ⑩ 関連農場の鶏糞の一部も搬入しており、ダンプは両農場間で共有しているが、農場入場時に車両消毒を行っているとのこと。完熟堆肥は農場外の保管場に搬出し、耕種農家に散布に行っているとのこと。
- ⑪ 死亡鳥は袋に入れて、毎日場外の共同保管場に農場主が搬出しているとのこと。共同保管場での積み下ろし後は、共同保管場に設置された消毒装置で車両消毒を行うほか、帰場時には農場入口で車両消毒を行っていたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎に隣接してため池があり、マガモ属2羽が確認された。今年は11月に入ってから見られ始め、通常は6羽程度見られるとのこと。
- ② 農場主によると、農場内でネコ、タヌキ、キツネ、イタチ、カラスなどが見られるとのこと。鶏舎内で目撃することはないとのこと。
- ③ 発生鶏舎内の断熱材やクーリングパッドにネズミのかじり跡が多数見られ、クーリングパッドにも5センチ程度の穴が見られた。また、ネズミの死体や糞を多数認めた。ネズミ対策として殺鼠剤を散布しているが、駆除業者による駆除は行っていなかった。
- ④ 堆肥舎と雑木林の間は除草剤による除草が行われていた。

(以上)